

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2024年6月7日）

■第1版 第4刷（2024年3月15日発行）、第3刷（2023年4月10日発行）、
第2刷（2023年1月20日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758123976_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
Part2-3+α 肝炎ウイルス検査とその対応					
153	図4のキャプション		<p><u>* B型肝炎治療ガイドラインではHBs抗原・HBc抗体・HBs抗体の3つを測定することが推奨されている。ただし、HBs抗体はワクチン接種者でも陽性になるため再活性化リスクとして特に重要なのはHBs抗原・HBc抗体であることを踏まえ、本書ではHBs抗原・HBc抗体を必須と記載した。免疫抑制治療開始前には各自の施設の運用ルールに応じてHBs抗原・HBc抗体・HBs抗体の測定を実施し、HBs抗体単独陽性症例に関してはワクチン接種歴を確認してほしい。</u></p>	P152～153の記載、図4への注釈の追記 冒頭の「B型肝炎治療ガイドラインではHBs抗原・HBc抗体・HBs抗体の3つを測定することが推奨されている。」部分は下線	24/06/07